

三島工業団地ニュース

No. 2 令和7年5月1日

Vol.47 三島工業団地協同組合

「静岡県の景気概況」

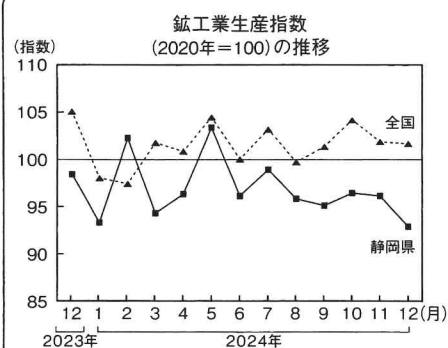
静岡経済研究所 景況レポート 2025年4月号より抜粋

"高まる賃上げ機運 県内景気は緩やかな回復基調続く"

物価高という下押し要因はあるものの、県内の大手企業で春闘の満額回答が相次ぐなど所得環境に改善が見られる中、サービス消費を中心に個人消費は持ち直している。一部に弱さはあるが、企業の生産活動も総じて底堅く推移しており、県内景気は緩やかな回復基調にある。

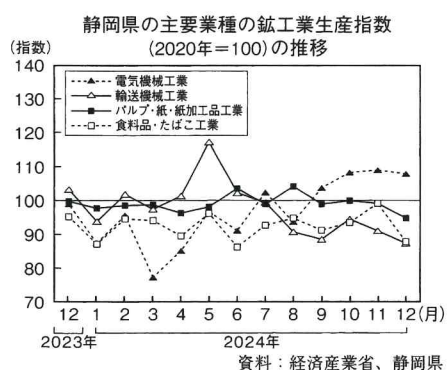
2025年度の県内企業の国内設備投資計画額は、前年度比+25.9%と大幅に増加する見通し。既存設備の維持更新投資に加え、新ラインの建設や省人化・自動化投資、DXに向けたデジタル関連投資といった攻めの投資もあり、積極的な投資姿勢が続くとみられる。

慢性的な人手不足やコスト高に加え、トランプ大統領の関税措置、地政学リスクなどの懸念材料はあるものの、中小企業にも賃上げ機運がさらに広がることで消費マインドが改善し、内需がけん引して県内景気回復基調が続くことが期待される。



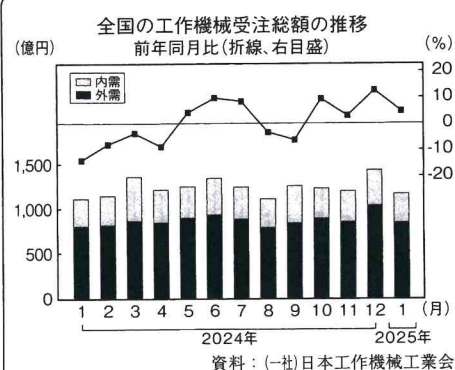
12月の静岡県の鉱工業生産指数は92.9（季節調整済、2020年=100）で前月比△3.3%と、2カ月連続で下降し、7カ月連続で100を下回った。

主要業種（季節調整済）では、電気機械107.9（前月比△1.0%）、パルプ・紙・紙加工品94.8（同△4.3%）、食料品・たばこ87.8（同△11.4%）、輸送機械



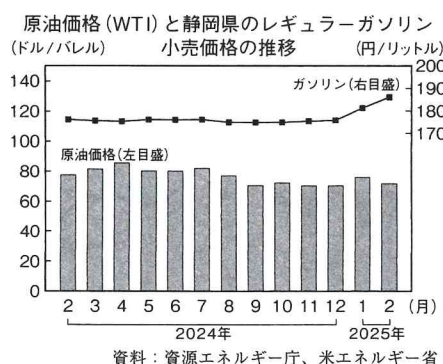
87.3（同△4.1%）といずれも前月を下回った。

その他の業種については、汎用・生産用・業務用機械79.0（前月比+4.4%）、プラスチック製品108.2（同+3.0%）、電子部品・デバイス87.9（同+7.7%）等は前月を上回ったが、化学106.0（同△1.6%）等は下降した。



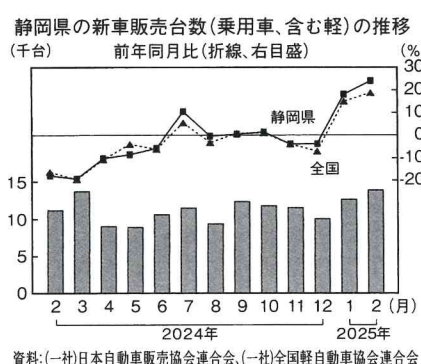
1月の工作機械受注総額（全国）は1,161億4,600万円で前年比+4.7%と、4カ月連続で前年を上回った。

内訳は、内需が319億9,600万円（前年比+4.6%）と3カ月連続で前年比プラスとなり、外需も841億5,000万円（同+4.7%）と、4カ月連続で前年を上回った。



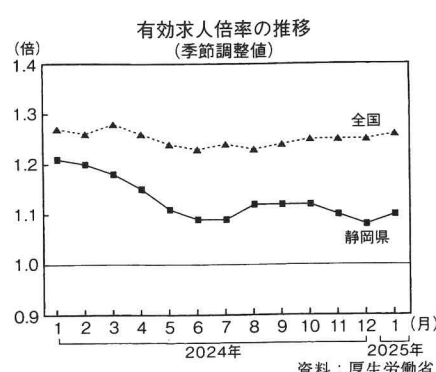
2月の原油価格(WTI、月平均)は1バレル=71.53ドルで前月比△4.21ドルと、3カ月ぶりに下落した。前年比でも△5.72ドルの下落となった。

静岡県レギュラーガソリン小売価格（第1月曜店頭現金価格）は1ℓ=186.1円（前月比+4.8円）に値上がりした。



2月の静岡県内の新車販売台数（乗用車、含む軽自動車）は1万3,848台で前年比+24.0%と、2カ月連続でプラスとなった。

車種別では、軽自動車が5,965台（前年比+27.0%）と3カ月連続で前年を上回り、普通車は7,883台（同+21.8%）と2カ月連続で前年を上回った。



1月の静岡県の有効求人倍率（季節調整値）は1.10倍（前月比+0.02ポイント）と上昇したが、全国（1.26倍）を28カ月連続で下回った。

新規求人数は2万3,110人で前年を△7.2%下回った。産業別では、運輸・郵便業、サービス業は増加したが、卸・小売業、建設業などで減少した。